



①課題

- ・教育目標や計画はあるが、取り組みが不十分である。今後の対策が必要。
- ・学校、学科の教育目標は学生には周知徹底しているが、保護者への周知が弱い。  
また、学生の認識や理解度の確認はしていないため、掌握が必要。

②今後の改善方策

- ・教務部を中心に各学科の連携を強化して進捗会議を持ち状況掌握を行う。
- ・保護者会、保護者面談、書面通知等、学校の教育理念等をどのように周知するかを検討する。  
ホームページに教育理念等、掲載しているが、それを書面にて案内することも有効手段の一つ。

(2) 学校運営

評価項目	※1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

- ・業務に関しては適材適所での配置をし、各業務を適切に遂行できるよう個人の質の向上が課題である。
- ・勤務の特徴から公休日や有給休暇を取得しにくい教員が一部いる。
- ・業務の簡素化、効率化を図る必要がある。

②今後の改善方策

- ・教職員の勤務体制や校務分掌は見直されてきているが、業務に取り組む姿勢や知識を身につけるよう外部組織が企画する研修等に参加をして、個人の質の向上を図る。
- ・管理職が公休日や有給休暇を取得できるよう配慮する。
- ・教職員の業務内容を見直す。

(3) 教育活動

評価項目	※1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発など	3

が実施されているか	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・履修認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

- ・現在の学年制では、進級または卒業と原級留置の0か10の選択のため、学力の低い学生、学習意欲の低い学生、遅刻・欠席などの生活状況に問題のある学生を補講や補習などを講じて、学力保証を行っている。学生の負担及び教職員も負担となっている。
- ・多職種連携教育の観点から、職業教育がどう行われているのかが十分理解できていない。
- ・3学科の特徴を活かした教育内容を具体化する必要がある。
- ・新旧カリキュラムの違いを説明しながら理解を求めている途中である。
- ・教員の資質向上のために、現場施設との関わりが重要である。

#### ②今後の改善方策

- ・教員の資質向上のための研修を、最低年二回は実施したい。
- ・学年制から単位制に移行し、不可だった科目を3年目に履修させ、3年をかけてしっかりと学力と生活態度を身につけて卒業させる。そのために単位制への変更を検討する。
- ・他職種連携の合同授業時間をカリキュラムに追加し、現在実施している研究発表の共有を継続する。
- ・教員は現場施設の現状を把握し、最先端のスキルを身につけるために、施設における専門分野のセミナーや情報交換会等への参加を支援する。
- ・業界（保育・介護・看護）は人材不足という課題を抱えつつ、本法人内でも人材育成が円滑に進んでいない現状を考察する機会を設ける。

#### (4) 学修成果

評価項目	※1
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	3

・ 退学率の低減が図られているか	3
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

※ 1 適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1

### ①課題

- ・ 就職フェアや学内就職ガイダンスの開催がコロナ禍で制限されていたが、コロナ禍も収束に向かい、新たな就職支援の構築が必要。
- ・ 学生の能力に応じた、看護師国家試験合格に向けての学習体系の模索中。
- ・ 卒業後の動向を把握するための体系ができていない。
- ・ 就職率の向上、資格取得の向上、退学率の低減等については、教員は常に学生に対して支援している。問題は、入学生の気質等が毎年変化してきており、学生指導が年々難しくなっているため、その支援方法が課題である。
- ・ 留学生の国家試験合格者をいかに増やすか。日本語能力の低い学生ほど合格率は低い。
- ・ 既卒者の就職先での評判を把握することが、現在の就職指導のニーズになる。
- ・ 退学者を低減させる。

### ②今後の改善方策

- ・ 学内就職ガイダンスを開催、夏から秋に開催する就職フェアに参加させて情報公開を早める。
- ・ 国家試験の解答を詳細に分析し、弱点分野を明確にする。
- ・ 模擬試験結果によって個別指導の強化を図る。
- ・ 実習での学びを国家試験対策に繋げることを継続する。
- ・ あかね会（同窓会）役員の役割の明確化と具体的活動計画を策定して活用する。
- ・ 学生気質の変化についていくのが難しく、精神的なフォローが必要である。そのための教職員研修に積極的に参加する。
- ・ 特定技能（技能移転終了）からの入学者の方が学習意欲や日本語能力が高いため、積極的に入学者を増やす。
- ・ 卒後支援委員会やあかね会（同窓会）で集まる機会を設けて情報交換会を行う。
- ・ 学生一人一人の把握強化に努め、早期介入と教員間の情報共有、チームアプローチを構築する。

### (5) 学生支援

評 価 項 目	※ 1
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	3
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	3
・ 保護者と適切に連携しているか	3
・ 卒業生への支援体制はあるか	3

・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

- ・面談の機会が少なく、学生の行動や思いの把握が出来ていない。
- ・学生への経済的な支援については、10年前から比べると劇的に変化し、学業に専念させるだけの支援制度ができてきた。しかし、これは一部の学生（貧困世帯）である。これからは中層所得世帯へと拡大されていくが、課題は、これらの制度を正しく理解して活用していくことである。
- ・相談内容に応じて、誰に相談すべきかわからず、自己解決するケースもあった。
- ・問題が生じたときだけの連携ではなく、日常から気を配り積極的に関わっていく。
- ・悩みを抱えた学生に対して、適切な支援が行えていない。

②今後の改善方策

- ・保護者を含めた面接の機会を持つ。
- ・学生を学業に専念させるためには、経済的な支援制度の意図や目的を理解させて、自身の立場を自覚させることが大切である。それを指導する機会を設定する。
- ・悩み等の相談は、まず担任に伝えてその内容に応じて、担任が相談相手の助言をする。学生は、相談相手を選ぶことができるよう人員配置をできるだけ整える。
- ・教員がもっと学生の中へ入っていく。
- ・カウンセラーの来校日の周知し、予約の有無等を学科で情報共有する。

(6) 教育環境

評価項目	※1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
・防災に対する体制は整備されているか	3

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

- ・合同で使用する視聴覚教室の放送設備等の老朽化がみられる。
- ・Wi-Fiの通信が不安定になるときがある。
- ・津波避難訓練の内容が充実していない。
- ・入浴実習室の使用頻度が少なく、排水管に残っている水が悪臭となる。頻繁に使用すれば水は順次入れ替わるので悪臭はしないため、対策として毎朝、水を流して対応している。しかし、水道代の高騰や手間が負担になっている。
- ・学校外の実習施設との連携を図り、充実した施設実習が行えるよう、教育体制の整備が必要。

②今後の改善方策

- ・合同で使用する視聴覚教室の放送設備は順次整備中。
- ・Wi-Fiの通信状況を再点検する。

- ・避難用のリュックの準備・装備や現場でのトリアージの模擬訓練への参加などの検討。
- ・入浴実習室の悪臭問題については、専門業者に改善の方法はあるのか確認をする。
- ・実習を円滑に進められるよう、施設との情報交換をより密に行う。

#### (7) 学生の受入れ募集

評価項目	※1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
・学納金は妥当なものとなっているか	3

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

- ・伝統ある専門学校として教育課程や就職支援や実績等、本校の魅力として募集活動を行っているが、受験対象者側の魅力と不一致なのか、思うような成果が出ない。
- ・オープンキャンパス参加者の希望内容の把握が一部できていない。
- ・社会人入学希望者に対して、本校の特徴をいかに伝えるかが課題。
- ・入試区分、面接の行い方、学校の特徴、教育課程、学費、奨学金制度、就職支援等、説明をする役割分担はあるが、基本的に広報部担当教職員はすべて話せるようにする。

#### ②今後の改善方策

- ・学生の学校選びの基準として教育内容や教育成果が重視される発信方法を見直す。
- ・模擬授業の項目を増やして、教育の内容や指導方法をオープンキャンパス参加者が体験をして、認識していただく。
- ・オープンキャンパスにて在校生との交流時間をつくり、在校生の声も聞いていただく。
- ・ホームページ上、高校生及び社会人に対しての魅力ある学科アピールをする必要がある。
- ・広報部担当教職員が担当者によって矛盾する説明のないように研修会を設けて学習する。

#### (8) 財務

評価項目	※1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

- ・学校の財政基盤は学生数の確保である。有効な広報活動が課題となる。
- ・前年度から水光熱費があがったため、節約が課題。

#### ②今後の改善方策

- ・広報の年間計画を着実に実行する。

- ・水光熱費に関しては、全員が節約意識を高めて取り組む。

#### (9) 法令等の遵守

評 価 項 目	※1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
・学校関係者評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
・学校関係者評価結果を公開しているか	3

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

- ・学校関係者評価委員会での外部委員の日程調整が難しい。
- ・教職員、学生ともに SNS の不適切な使用や、その気はないが結果的にハラスメントとなり、人を傷つけている事が見受けられる。

#### ②今後の改善方策

- ・学校関係者評価委員会の開催をコロナ禍により普及したオンラインを活用して開催する。
- ・コンプライアンスやハラスメント、個人情報保護等の研修を行う。

#### (10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	※1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

※1 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

- ・ボランティア募集はあるが、参加する学生は以前に比べて減少している。
- ・コロナ禍でボランティア活動ができない状況が続いていたので、社会貢献に対する意識が薄れている。
- ・学生ボランティア活動を奨励し、社会貢献、福祉活動への関心を高める。

#### ②今後の改善方策

- ・地元行政や民間団体のイベントや募集があれば積極的に参加し、地域貢献を行う。
- ・年度初めに社会貢献（ボランティア活動）についての説明を行う。
- ・南専祭（学園祭）等を活かして地域貢献したい。
- ・様々なボランティア活動を紹介することと、学校独自の活動を積極的に提案する。